

令和5年度 第1回学校評価（7月実施）結果

重点目標

教育目標「ゆめをもって 自分らしく はつらつと生きる子」

- ・ なかよく思いやりのある子
- ・ わたしもあなたも健康な子
- ・ かんがえを深め学び続ける子
- ・ がんばりがきき、ねばり強い子

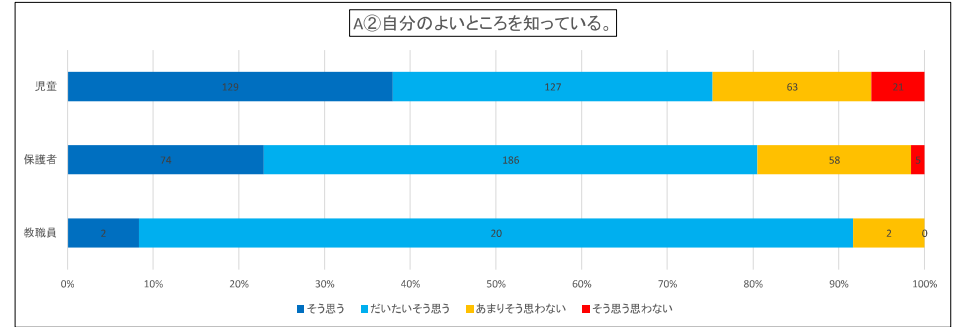
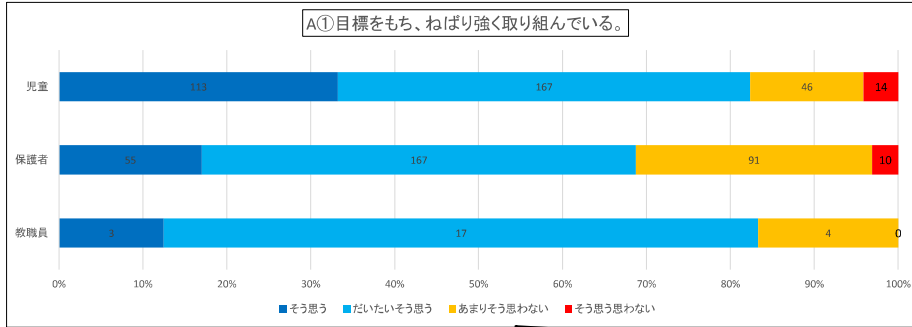
※ 児童アンケート⇒「わたしは」、保護者アンケート⇒「わたしの子ども」、教職員アンケート⇒「中川小の児童は」で書き出しています。児童用は、低・中・高学年用に分けています。

「そう思う」「だいたいそう思う」の合計が70%以上
 「あまりそう思わない」「そう思わない」の合計が30%以上

⇒ ○ 評価が良い項目
 ⇒ ● 評価が良くない項目

⇒ ……今後の取り組み

A【学校教育目標について】



項目1「目標をもち、ねばり強く取り組んでいる」

[分析]

昨年度同様、保護者の評価が少し低めでした。学校では、子供たちに年間目標、活動目標等もたせてやっているの、保護者の皆さまにもそれが伝わるようにしていきます。

[今後の取り組み]

授業や学校での活動で頑張っている様子、宿題やノート、テストの直しなど、家庭とつながりのある所で、子供が頑張っている様子を伝えていきます。

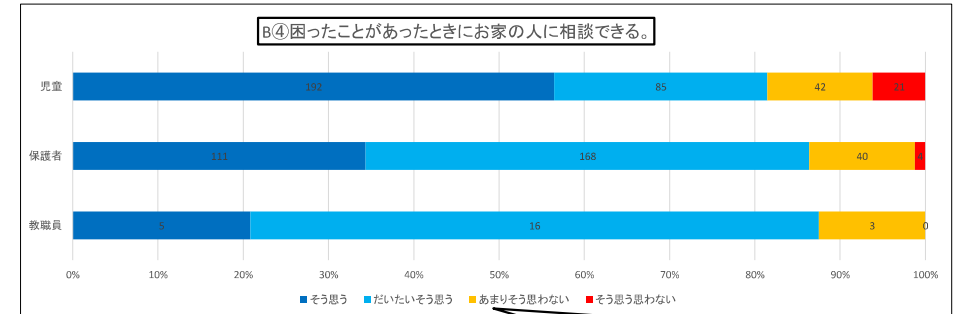
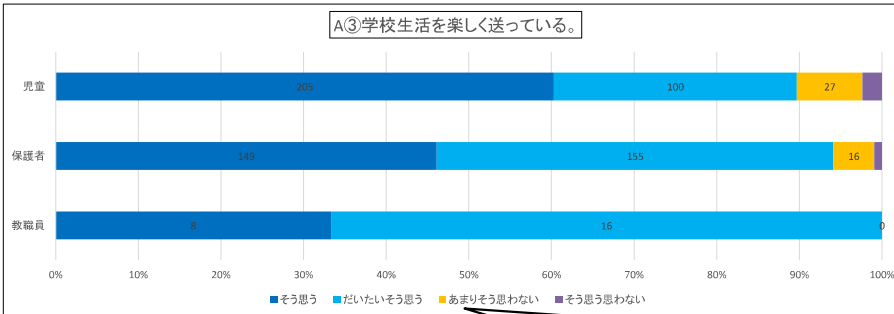
項目2「自分のよいところを知っている」

[分析]

児童の評価が最も低かったものの、全体としては高評価が多かったです。

[今後の取り組み]

スマイルカードに定期的に取り組み、自己肯定感を高めさせていきます。努力を積み重ねた上で、それをみんなで褒める・認める場面を意図的に設定していきます。



項目3「学校生活を楽しく送っている」

[分析]

教員・保護者共に高評価でしたが、児童の約1割が低評価でした。

[今後の取り組み]

学校ならではの、友達や教員と過ごしたり活動したりする時間が楽しくなるような取り組みをしていきます。また、子供たち一人一人が自分の居場所を感じられるような人間関係作りも、道徳科や学活を中心とした学習の中で培っていきます。

項目4「困ったことがあったときに先生やお家の人に相談できる。」

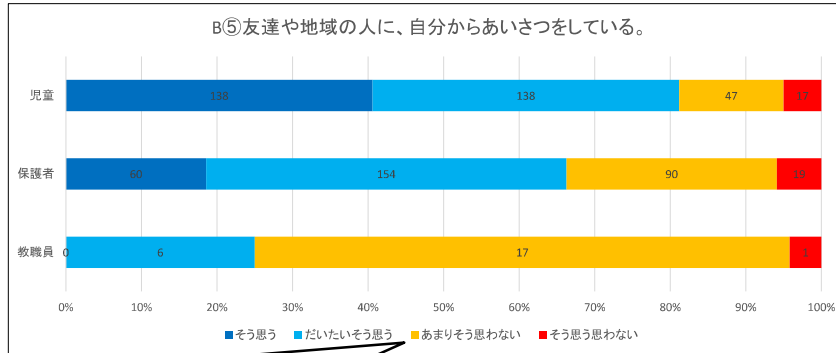
[分析]

児童の約18.5%は、「相談できない(しにくい)・する人がいない」という実態が分かりました。

[今後の取り組み]

学校生活アンケートなど、相談できる場を設けていく中で、いつでも相談をしやすい関係作りや環境づくりに努めていきます。些細な会話の中から、子供たち一人一人の気持ちの変化を感じ取り、不安や悩みごとの解消の手助けができるよう、意識していきます。それが、いじめ等の早期発見につながると考えます。

B【生活について】



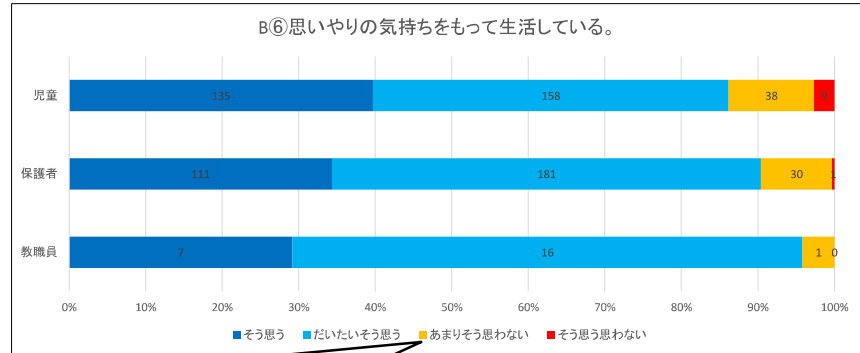
項目5「友達や地域の人に、自分からあいさつをしている」

[分析]

昨年度と同様、児童の評価は80%以上が高評価でしたが、保護者は7割弱、教員は3割弱と、大きく差がありました。にこにこの日のあいさつ運動などで、あいさつを意識する児童は増えていますが、いつでもどこでもあいさつができていないという実態があります。

[今後の取り組み]

教員が率先して「よいあいさつ」を見せていき、相手に伝わるあいさつを心掛けるようにさせていただきます。委員会活動や全校朝会等でも呼び掛けていきます。



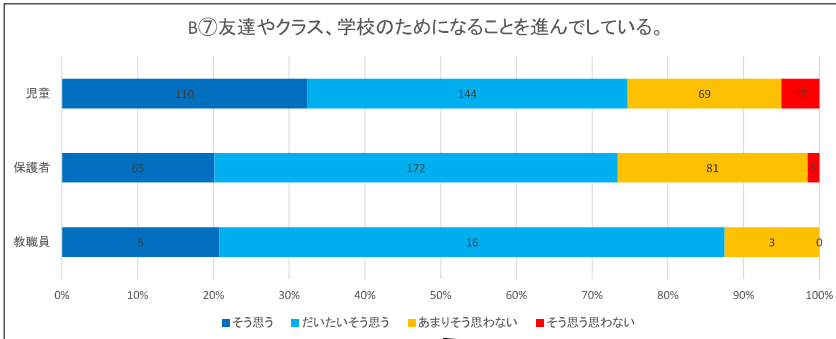
項目6「思いやりの気持ちをもって生活している」

[分析]

どのカテゴリーでも、9割前後が高評価をしていました。

[今後の取り組み]

引き続き、学校では子供たちのよい表れを賞揚し、思いやりの気持ちをもって接することのよさや大切さを実感させながら活動していきたいと考えています。道徳科や学活の授業を中心に、お互いが相手の気持ちを考えて行動することが、よりよい人間関係を構築していくことにつながるということを学ばせていきます。



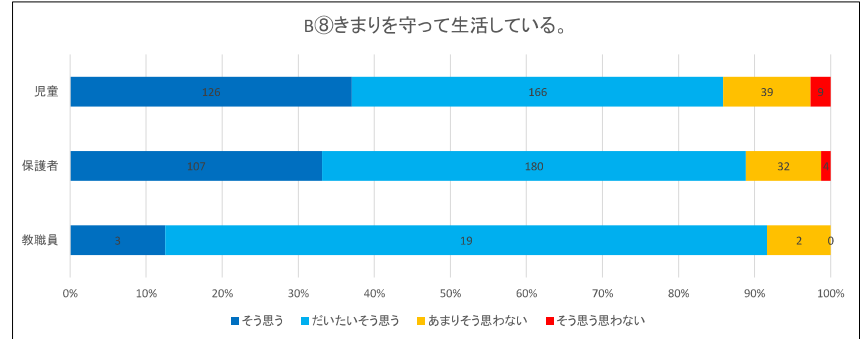
項目7「友達やクラス、学校のためになることをしている」

[分析]

昨年度と同様に、児童と保護者の評価よりも、教員の評価の方が高い結果となりました。

[今後の取り組み]

学校では、教員の手伝いや授業の準備・片付けなど、自分で気付けて進んで行う子がたくさんいます。困っている子がいたらすぐに声を掛けてくれる児童もたくさんいます。それらの行動の素晴らしさを価値付けて伝えていきます。



項目8「きまりを守って生活している」

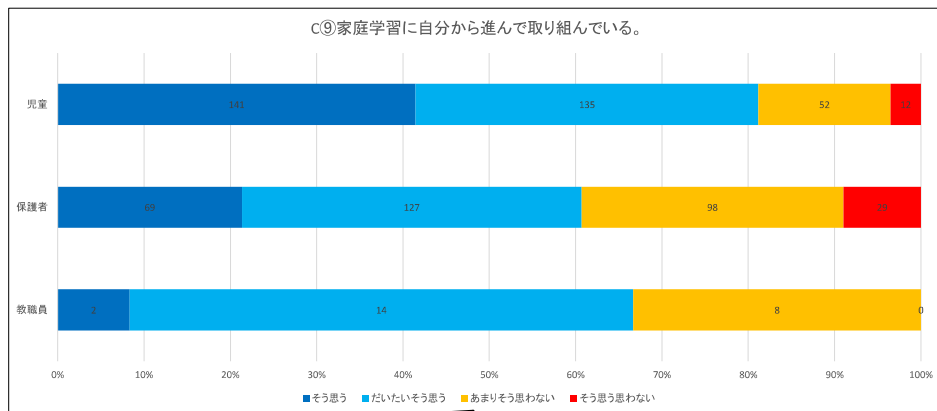
[分析]

全体の傾向として、昨年度と大きな変化はありませんでした。児童の約14%が低評価でしたので、自信をもって高評価が付けられるように支援していく必要があります。

[今後の取り組み]

クラスの中で、よりよいクラスにしていく意識を高めさせていきます。集団生活の中では一人一人がきまりを守ることが大切であることを知り、個々に守るべきことや、全体と一緒にやっていくことなど、様々な活動の中で意識させていきたいです。

C【学習について】



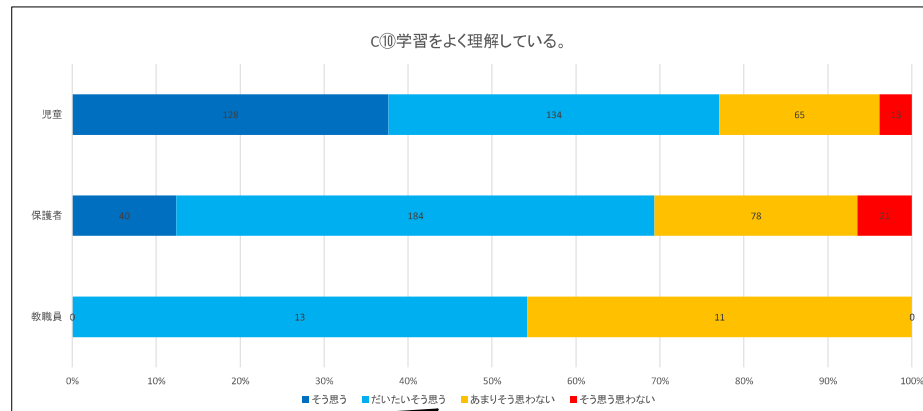
項目9「家庭学習に自分から進んで取り組んでいる」

【分析】

児童の評価は8割以上が高評価でしたが、保護者の評価は6割程度でした。

【今後の取り組み】

「進んで」取り組みたいと思えるような課題を工夫したり、「できる」喜びを味わえるような難度の設定にしたりすることで、子供たちの学習への意欲を高めていきます。御家庭でも、個々の苦手を補えるような支援であったり、生活習慣の中に規則正しく学習の時間が設定されるような工夫をしていただけるとありがたいです。



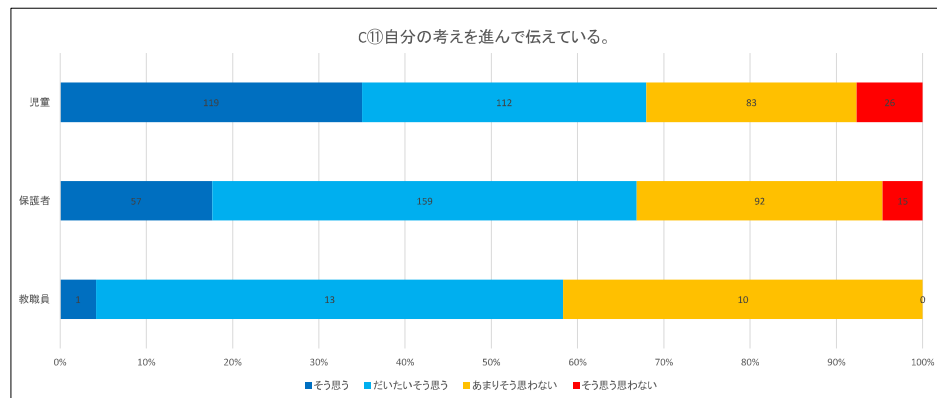
項目10「学習をよく理解している」

【分析】

教員の視点では、半数近くが低評価でしたが、児童の評価はそこまで低くはありません。これは、教員が児童に「できる・わかる」と実感させられるような授業づくりをしてきた成果の一つなのかもしれません。

【今後の取り組み】

ドリルパークなどの反復練習で、基礎的・基本的な学力の定着を図る必要があります。また、語彙を増やすための学習も朝の補充学習等で取り入れていきたいと考えています。児童が自分自身の課題を知ることができるように教員が支援することで、より主体的な学習ができるようになると思います。



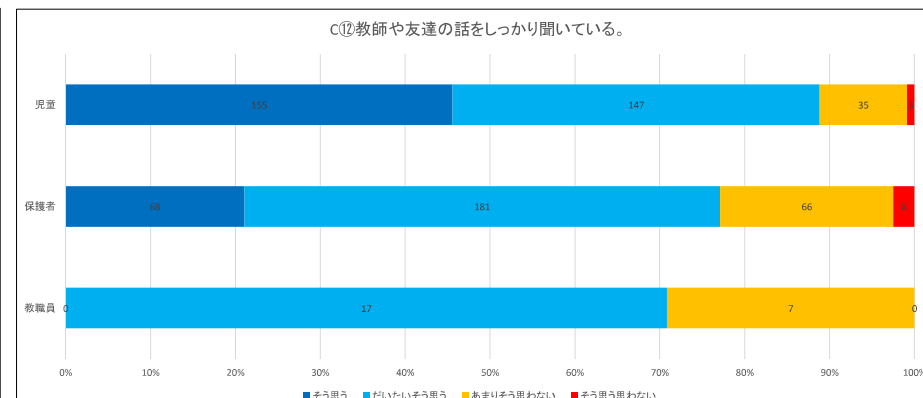
項目11「自分の考えを進んで伝えている」

【分析】

全カテゴリーにおいて、低い評価となりました。昨年度の結果から大きな変化はありません。「考えを伝える」手段としては、挙手による発表だけでなく、グループ学習やホワイトボード・Chromebookを活用した話し合い活動等、様々な形態があるのですが、より活発な交流ができるように支援していく必要があります。

【今後の取り組み】

クラスごとの実態に合わせて、子供たち同士の交流がより活発になるような授業展開の工夫をしています。また、構成的グループエンカウンターなども活用し、子供たちどうしの人間関係もよりよいものにしていくことで、自分の考えを伝えやすい環境を整えていきます。



項目12「教師や友達の話をしっかり聞いている」

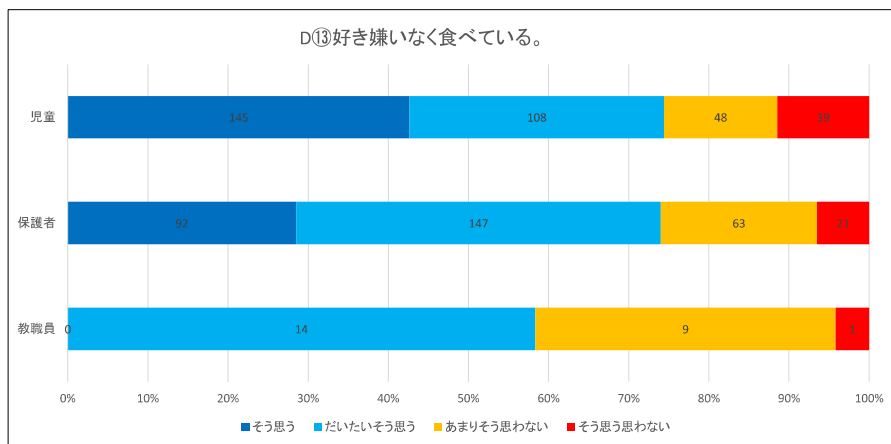
【分析】

全体としては、7割以上の高評価となりました。児童は、9割近くが高評価です。ただし、中には、「聞いてはいるが理解はできていない。」といった意見もあり、聞いたことを理解し、行動に反映することができるように支援していく必要があります。

【今後の取り組み】

聞くことで得た情報を自分の言動に反映させるためには、情報の理解度や自分にできることを考える力が必要になってくると考えます。支援や助言をしながら、できることを増やしていくことで、聞いたことを生かせるようにしていきます。

D【健康・安全について】



項目13「好き嫌いなく食べている」

[分析]

給食の残菜は年度当初よりだいぶ減ってきていますが、教員の評価が最も低くなりました。

[今後の取り組み]

好き嫌いについては、家庭とも連携を図って改善していけるといと考えます。栄養のバランスに配慮して、必要な栄養素をきちんと摂取できる習慣を身に付けられるように、支援をしていきます。御家庭でも無理なく励ましながら、食事を楽しめるようにしていただきたいと思ひます。

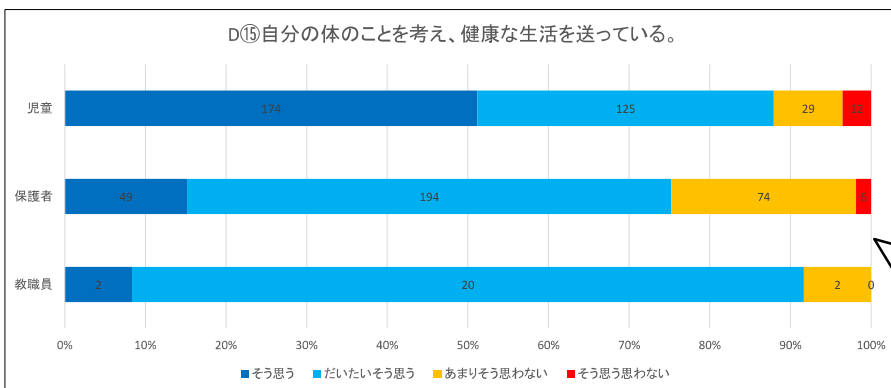
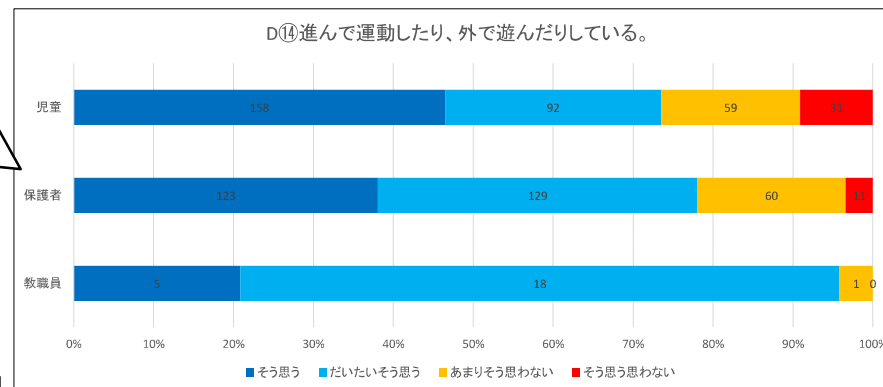
項目14「進んで運動したり、外で遊んだりしている」

[分析]

全体としては高評価でしたが、約4分の1の児童が低評価でした。

[今後の取り組み]

9月はまだ残暑が厳しいことが予想されます。必要に応じて熱中症対策をしながら、元気に外で遊べるような運動習慣を身に付けさせていきます。



項目15「自分の体のことを考え、健康な生活を送っている」

[分析]

全体的に高評価でした。しかし、保護者の約4分の1が低評価でした。

[今後の取り組み]

保健・栄養の観点から、給食週間などの機会を活用して健康的な生活を送るためのアドバイスをしていきます。各御家庭におかれましても、基本的な生活習慣の徹底に引き続き御協力ください。